

2023 年 (令和 5 年) 9 月 11 日

独立行政法人国際協力機構 (JICA) が実施する『マレーシア国産業制御システムのサイバーセキュリティに係るインド太平洋地域向け日米演習 (サイバー・フィジカル・セキュリティ対策フレームワーク導入)』業務を、SFC フォーラムが受託、実施することが決定しました

## 1. 業務概要

現在、あらゆる組織が、潜在的に脆弱なモノのインターネット (IoT) の前例のない成長への対応に苦戦しています。IoT 機器や関連サービスがグローバルなサプライチェーンを構成するさまざまな国や地域で開発されていることを考慮すると、サイバーフィジカルシステム全体の信頼性を新たな角度から確保することが求められています。

エネルギー・リソース・アグリゲーション・ビジネス (ERAB) は、高度なセンサー情報や電力需要に応じて、分散型エネルギー資源 (DER) の発電量や制御可能な負荷 (CL) の需要を抑制または増加させる新しい電力事業です。

経済産業省 (METI) によって策定された「サイバー・フィジカル・セキュリティ対策フレームワーク (CPSF)」は、この分野のセキュリティ設計を先導することを目指しています。また、資源エネルギー庁、独立行政法人情報処理推進機構 [IPA] は、エネルギー・リソース・アグリゲーション・ビジネスに関するサイバーセキュリティ ガイドライン (以下、ガイドライン) を制定し、ERAB システムのセキュリティ設計の指針を示しています。

また、本件に参画する慶應義塾大学サイバー文明研究センター (CCRC) の研究者らは、2021 年に CCRC Technical Report on Security Recommendations for Distributed Energy System Aggregators (ERAB システムのセキュリティ推奨事項に関する技術レポート<sup>1</sup>) を発行し、CPSF やガイドラインを参照したセキュリティ設計、さらには同セキュリティ設計の国際連携に貢献してきました。

本業務では、これまでの産官学による日本国内における取り組みの成果を、日本 ASEAN 友好協力 50 周年を迎える 2023 年に、ASEAN 主要国であり、CC (IEC15408) 承認アレンジメント国であるマレーシアに同国の学術機関及び民間企業と連携して推進して参ります。

<sup>1</sup> <https://www.ccrcc.keio.ac.jp/ccrc-technical-report-202109/>

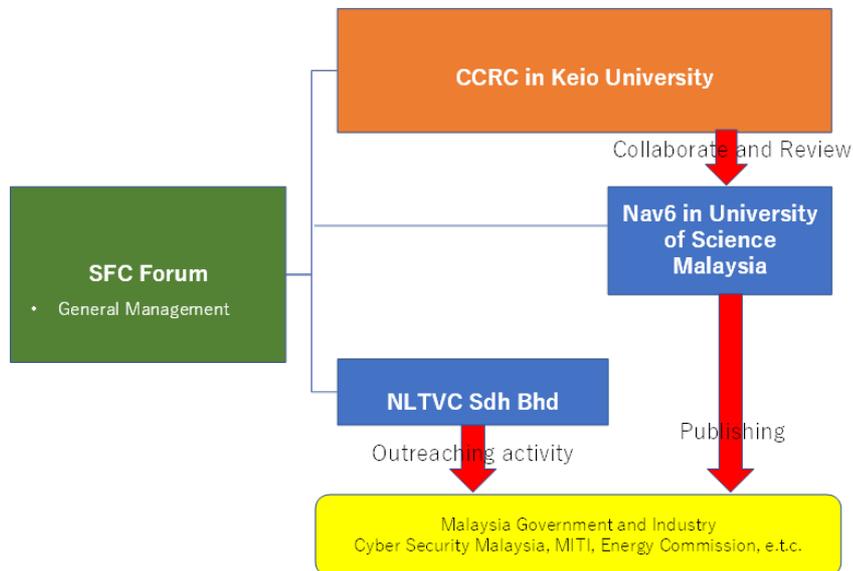
## 2. 実施体制

### 2-1. 日本側

SFC フォーラム (SFC Forum) は、大学の研究成果と新たな事業・政策の設計をリードする人材との融合を目的としたコミュニケーションの場の創造を目的に設立された機関です。

慶應義塾大学サイバー文明研究センター (CCRC) 研究者らは、技術の進歩によってもたらされるリスクと利益を研究し、予想される社会的影響を分析し、効果的な将来計画を支援するツール

(方法) を考案することを目的として、学際的な研究者チームで構成されています。CCRC に関しては、<https://www.crc.keio.ac.jp/about/members/>をご参照ください。



### 2-2. マレーシア側

National Advanced IPv6 Center (Nav6) は、マレーシアにおける IoT 向けの IPv6 ネットワークとサイバーセキュリティの先端研究を推進することを目的とした University Sains Malaysia に設置された国営の学術研究機関です。Nav6 に関しては、<https://www.nav6.usm.my/>をご参照ください。

Northern Lights Solutions (NLTVC) は、Sureswaran Ramadass 博士の発明に端を発するビデオ会議システムを活用した IT エンジニア教育プログラムを対面およびオンラインで提供している企業です。NLTVC に関しては、<https://www.nltvc.com/>をご参照ください。

#### 【配信元・お問い合わせ先】

一般財団法人 SFC フォーラム (担当: 事務局長 廣川 克也)

252-0816 神奈川県藤沢市遠藤 4489 105

E-mail : [info@sf-forum.or.jp](mailto:info@sf-forum.or.jp)